

ボードゲームから里海を考える講座 開催しました！



- 日時 令和4年12月11日（日）10：00～12：00
- 会場 香川大学幸町北キャンパス 研究交流棟6階 第1講義室
- 進行 井下 由美 氏（里海ゲームを活用したファシリテーション講座修了生
ワンハンド瀬戸フレンド・Fun! Fun! English 代表）
吉岡 忠助 氏（里海ゲームを活用したファシリテーション講座修了生
ワンハンド瀬戸フレンド 代表・高洋商事株式会社 取締役）
- 進行アシスタント 谷 益美 氏（株式会社ONDO代表取締役）

12月11日（日）、香川大学幸町北キャンパスにて、「ボードゲームから里海を考える講座」を開催し7名が受講しました。この講座は、里海について話し合いながら学ぶゲーム「SATO-UMI・1000」（サトウミ・セン）を実際に体験しながら、理想の海について考えました。進行は、7月に実施した「里海ゲームを活用したファシリテーション講座」修了生の井下氏と吉岡氏が務めました。

はじめにグループで自己紹介を行った後、「里海づくりとは？」というテーマでお話がありました。里海づくりには山・川・里（まち）・海のつながりを考えた総合的な施策展開が必要であり、かがわの里海づくりでは、人の暮らしと海が近いという特徴を生かして、県下全域を対象とした里海づくりを県民や関係者と連携・協働しながら行っているという解説がありました。



次に、里海ゲーム「SATO-UMI・1000」（サトウミ・セン）についての説明がありました。「SATO-UMI・1000」は、里海づくりに関する「行動カード」や「チャレンジカード」を使って、受講者同士で対話しながら「理想の里海」や「身近な里海づくり」について学び合うゲームで、制限時間内にポイントチップを多く集めた人がゲームのMVPとなります。受講者はゲームの進め方を聞いた後、実際にゲームを体験しました。

最初は井下氏と吉岡氏がゲームの進行をサポートしていましたが、プレイヤーが一巡するころには受講者だけでゲームが進むようになり、ゲームを楽しんでいる様子でした。「行動カード」では、“レジ袋をもらわない”などのカードに書かれた他のプレイヤーの行動を予想し、その人数を当てます。「チャレンジカード」では“海を題材に一句詠む”というユニークなお題もあり、受講者は「始めよう 海ごみ拾い 楽しいよ」など即興で読み上げていました。30分ほどゲームを楽しんだ後、振り返りを行いました。ゲームの中で印象に残ったことや感想をグループ内で話し合い、代表者が発表しました。「自分の当たり前は誰かの当たり前でないことを再認識した」、「多くの人に里海づくりに参加してもらえるきっかけになるようにゲームを広めていきたい」等の意見がありました。



講座の後半は香川の里海づくりにおける「5つの重要課題」として、「①有機汚濁」「②栄養塩の問題」「③藻場不足」「④海ごみ問題」「⑤海との関わりの希薄化」について説明があり、海ごみ問題について、海岸の細かく散らばった発砲スチロールやマイクロプラスチックが散乱している海ごみの現状について分かりやすく解説していただきました。

そして、吉岡氏より「未来にどんな海を残したいと思いますか？」という問いかけがあり、受講者は理想の海カードを1枚選び、その理由をグループで発表しました。“干潟が大事に守られている”カードを選んだ受講者は、「まずは水の浄化作用を復活しないとイケない」という想いを語っていただきました。さらに、「そのために自分やみんなでやるべきことはなんだと思いますか？」という問いかけに思いついたアイデアを付箋紙に書いて模造紙に貼り付け、お互いのグループのアイデアを見比べました。

最後に、今日から取り入れたい“+1アクション”（プラスワンアクション）を紙に書いて、記念撮影を行いました。受講者からは、「グループで話し合う機会がたくさんあり有意義だった」、「参加している方々の普段の活動や思いを知ることが出来てとても刺激になりました」等の感想がありました。

